

平成16年度エル・ネット「オープンカレッジ」

IT活用で生涯学習を
80倍面白くする方法
eポートフォリオ入門

第1回「eポートフォリオ入門」全文採録

講師 前川道博（東北芸術工科大学専任講師）

【1】eポートフォリオとは何か

=====

<番組のリーディング>

=====

E100 ポートフォリオを知っていますか？

（出演）渡部伸一さん（東北芸術工科大学1年生）

（出演）相沢直樹さん（東北芸術工科大学1年生）

（出演）斎藤美佳さん（東北芸術工科大学1年生）

（出演）ジェーン・コンラッドさん（Assistant Language Teacher）

（出演）青木和夫さん（東根市立第一中学校教諭）

（出演）羽柴真美さん（東根市立第一中学校教諭）

（聞き手）伊勢博さん

伊勢 ポートフォリオって知ってますか。

渡部 ポートフォリオ…。何か聞いたことはありますね。

伊勢 …知っていますか。

相沢 いや、知りません。

伊勢 ポートフォリオって知ってますか。

斎藤 名前だけは聞いたことがあります。

コンラッド ポートフォリオとは自分の作品、写真、芸術作品などを集めたもので、進学や就職のときに提示するもので、例えば自分の作品記録みたいなものです。

伊勢 ポートフォリオってというのはご存知でしょうか。

青木 ポートフォリオってというのは総合学習なんかでよく聞く、生徒が学習を進めるときにファイルしていくような、そういうやつでしょうかね。

羽柴 総合学習で、2、3年前、千葉の方かな？ 研修に行った時に総合学習の実践校で聞いたり、見せたりしていただきました。

=====

<イントロダクション>

=====

L101 e ポートフォリオとは何か

「e ポートフォリオ」という言葉は新しい言葉なんですけれども、「ポートフォリオ」という言葉はこれまでも社会の中で広く使われてきました。ポートフォリオ。これは「紙ばさみ」とか紙を入れるファイルのことを意味しています。その中に自分の作品、あるいは学習であれば、記録したものを放り込んで束ねていく。そうするとこういう厚みのあるファイルができる。これがポートフォリオです。その中には自分の学習履歴、いろいろ学習したことが詰まっているものになっていくわけです。これを5年、10年と続けるとたいへん立派なポートフォリオができていく。そこに自分の学習の成果物、そして知識を育んだものが全て記録されているというものができていきます。それがポートフォリオです。

で「e」が付くんですけれども、この「e ポートフォリオ」というのは、それを IT を使ってもっと、物理的なかさばるものではなくて、パソコンを使って、その中にデータが入る。その中に蓄積されていくというものです。それが「e ポートフォリオ」なんですね。

L102 「興味」を引き出そう

これまでと何が違うのかというと、それは与えられたものを受け取るという学びとはちょっと違って、自分が興味のあるもの、何を学びたいんだろうかということを中心にいろいろなものを集めていく。そして調べていく。そして自分の知識に変えていくということなんですね。それを支援する一つの方法がポ

ートフォリオ学習なんです。

このポートフォリオなんですけれども、この中に5年間、10年間、あるいは20年、あるいはもっと何十年の自分の学習の成果物が蓄積されていきます。蓄積することが目的ではなくて、そこへ蓄積していく過程でいろいろなものを学習していくわけです。その中でいろいろな発見もあります。感動もあります。そういうものが全て綴られていく。記録されていく。そういうものになっていきますね。その絶え間ない繰り返しというものがポートフォリオ学習というものです。どうやって自分の興味あるものを引き出していけばいいんだろうか。こういうところがまず出発点になります。「あなたは今一番どういうことに興味がありますか。」という問いかけからまず始めてみたいと思います。

L104 e ポートフォリオの事始め

いろんな人たちに話を聞くと、自分は何をやりたいのかな、というのが意外とわからないでいたりする人たちもいるんですね。それから何かいろいろ熱中してやっている人たちもいるんですけども、例えば、パソコンという道具とそれが結びついていなかったりというケースもよくあります。これがお互いに結びついたり、その道具を使うことによって興味が引き出されてくるというふうなことがあるわけなんです。この辺もeポートフォリオというものの一つの面白いところなんです。

この方法は最初は私が始めました。「私が始めた」というのは、今から7年ぐらい前に、自分のポートフォリオをパソコンを使ってどういうふうにするかできるんだろう？ というモデルケースから始めたというのがそもそもの出発点です。ビデオで映像を撮ってくる。で、それを素材にして整理をしてみる。するとそこにいろいろな物語があるということに気づくんですね。で、いろんな発見がある。それもただビデオで撮っただけでは意識しなかったものが、ちゃんと画像にして、ホームページになって見れるようになって、そしてそれがしっかり確認できるようになってくるわけです。すると自分にとって意味のあるものがそこに見出されてくる。それを言葉で表現すると、一つの記録になるわけですね。そこで学習したことの意味づけができるわけです。これが私のポートフォリオの原点のようなものなんです。

そしてそれを一つ、二つ、三つと、二月、三月...というふう積み上げていくと、最初20ページぐらいだったものが、次第に100ページ、200ページ、それが5年、6年、7年と続いて今は6万ページぐらいになっています。それぐらいの規模にまで成長していくわけです。5年、6年、7年経って数万という数なんです。これが多いか少ないかっていうのは見方によって違います。それから量を競うものではない。ただ、ずーっと連続してそれが切れ目なく今に続いているっていうのが、私の生涯学習のページ作りだったんですね。なんでそういうことができるかっていうと、これはコンピュータ、道具を使っているからなんです。今私たちのところで開発をしているポップコーン(PopCorn)、プッシュコーン(PushCorn)というソフトを使っています。これを使っているんで、作るのがとても楽なんです。続けるのがとても楽なんです。毎回、新しい発見がある。すると、それをまた画像にして追加する。でそれを記録する。整理する。これを繰り返していきます。これはとても面白い。そしてそれが負担なくできることが長続きする上でとても大切なことなんです。

L105 かさばらない

これまでのホームページ用のソフトを使うと、なかなか一つ一つのページを作るのが大変だったりしました。そうすると作るのを目的にしないとなかなか長続きしなくなったりして、結局はそれで挫折してしまったり、それが大変なために自分の考えていることが引き出されなかったりする。興味が引き出されなかったりする。そういうふうなことでいるんなら阻害要因が外側にあったと思います。それがこういう道具を使うことによって、とても楽になってきたんですね。これがeポートフォリオの、道具を使うと効果的に進められるという側面。そしてとても長続きするということなんですね。

で5万ページ、やがては10万ページというふうになったとしても、これは決してかさばることがないんですね。

これは、例えば、ホームページの一つ一つのページをプリントアウトして紙にしたとしたらどうなるか。これはとても(手を上げて)こういう厚さではありません。(さらに高く上げて)こうもなりません。(さらに高く上げて)こんなものじゃとても収まらないです。ものすごいファイルをずらっと並べることになりますね。こういうふうに物理的にかさばったもので、さらにそれを蓄積していくというのは難しいですね。

それからここにあるものも、前に作ったものも手直しをしたい。それから統合化し直したい。編成し直したいということがあってもなかなかそれができないわけです。

ですから、こういう道具を使うとそれがとても楽になる。そしてこんなにかさばることもなくですね、何十年でも続くということになるわけなんですね。

それでホントにポートフォリオを作るとということがとても楽になりました。

=====

私のeポートフォリオ(1) <いばらきL3ネットの皆さん>

=====

E101 歴史と建物

(出演) 井下義雄さん(茨城県茨城町)

井下 歴史に関することとか建物…。これはひたちなかの方なんですけれども。建物関係を、茨城県のをちょこっと載せたりしましたね。

E102 仏教美術

(出演) 山口文夫さん(茨城県石岡市)

山口 私は…仏教美術的な。特に仏像を中心にした…ですね。仏教、信仰というのは除いて、そうじゃないんですけど。仏教思想的な面とか仏教美術的な面から仏像を中心にして。仏像はどうしてもカメラに写しやすいんですね。そういうところとかを中心に。いろんなところを歩いた結果をまとめていくということ、もう少しライフワーク的にもまとめていきたいと思っていますね。

E103 ひたちなかの自然

(出演) 葛貫壮四郎さん(茨城県ひたちなか市)

葛貫 ひたちなかも自然が多いんですね。私、花とかそういうもの撮ったりですね。まあカラスウリの花っていうのは…。あれをずーっと撮りまして。どんどん大きくなっていくわけですね。ちょうど1時間ぐらい撮っているところになって(花が開いて)いくんですね。誰も見たことないんです。カラスウリの花。というのは夜咲くもんですから。」「8月の末から9月です。で6時頃、ちょうど暗くなるとその場所。群生する場所に行ってビデオ撮ったと。でセミの声聞きながらですね。カナカナを聞きながら、じわじわじわって大きくなっていくのを見ていると、ああ、これは凄いなあと。で、それを情報発信したり、ですね。なかなか普通見られないやつを動画で発信できた。

=====

<興味引き出し法>

=====

L106 自分の「興味」の引き出し方

ポートフォリオ学習で大切なことの一つ。それは「興味」の引き出し方ということですね。自分の興味あることの引き出し方。もちろん自分で興味のあることがある人はいいいんです。それを育てていけばいいんです。なかなか興味を発見できないでいる人もいたりするんですね。ですけれどもいろんな人たちに聞くと、じゃあ、何もやらなくていいのかということではなくて、本当はもっと楽しいこと、面白いこと。これを探しているんですね。その声がとても切実だったりするんですね。そして実際にポートフォリオ学習を始めて面白かったという話を振り返っていただくと、本当はそこに自分の生き様というか、人生観、生き甲斐というものを創造したいんだっていう気持ちがとても強いということを感じたりしています。

そういう、とても「生きる力」になる。支えになる。そういう意味も持っているものがポートフォリオ学習なんですね。

自分の興味の引き出し方というところが一つポイントになります。で、これは、人から言われて興味を発見するものでもないんですよ。ですからそこが最初難しいところかもしれないですね。それでこれまで私の大学では、公開講座を何回かやりました。そしてポートフォリオ学習のいくつかのテーマ、切り口をメニューとして用意してきました。最初の公開講座は4回シリーズでやりました。それは最初は「環境学習」、それから「自然観察」、それから「地域学習」、それから旅のレポート「旅れば」。こういうテーマ設定でやったんですね。

いろいろなものが学習の入り口なんです。そして興味あるものの接点になっているものなんです。「旅」をするから、それは「学習」ではない、ということではないんですよ。それから遊びをしている、スポーツをしている。だからそれは学習ではないということではないんですね。それも全て興味あるもの、学習の対象なんです。「興味あるもの」なんです。

ややもすると学習するということと遊ぶ、それからどこか旅をして楽しむことが違うものであるかのようには誤解をしてしまっている。これは境目はないはずですね。そこに自分の本当に興味のあるものがあるはずなんですね。あるいはそこから自分の興味あるものが引き出されていく。発見されていくはずなんです。

すね。そこに気づいていただくっていうことが、また大切なことなんではないかな？ と思います。

L107 デジカメとビデオカメラ

自分の興味の引き出し方。これにはいろいろな方法があります。文章を書くのが好きな方は文章を書いていくといいですね。それから写真を撮るのが趣味の方もいらっしゃいますよね。写真を撮ってくればいいんです。それをポートフォリオに入れるっていうふうなことを考えるといいんです。

今、いろいろな道具ができています。(デジカメを手にして)一つはこういうデジカメですね。デジカメ、ちょっと開いて、こう撮ればすぐ撮れます。こういうものがあります。

パソコンにこれを取り込んですぐに入れることができます。デジカメはeポートフォリオを作る、とてもいい道具の一つになりますね。

それからビデオカメラですね。(手にして)こういうビデオカメラ。今、インターネットで動画配信などもできるようになってきました。ビデオで撮ったものがインターネットで流せるようになってきました。するとこれもまた大きな可能性を広げるわけです。

それから私は普通ビデオカメラを使っているところを撮ってきています。それを素材に使っています。デジカメでなく、なんでビデオカメラを使うのかというと、たくさん撮れるからなんですね。これも意外と気づかない方法かと思って、ここでご紹介したいと思っています。

ビデオカメラですとたくさんこう回せるんですね。そしていろいろな対象物は動いているわけなんですね。時間を伴っているわけなんです。車に乗っていれば車が動いています。人も絶えず動いて活動しています。その時にビデオカメラでずーっと回していると、それを連続して撮ることができるわけなんですね。するといろんなものがたくさん撮れます。そして、デジカメですと、どうしても最初から選んで撮るということをやります。ですから瞬時に「あれを撮りたかった」という時に撮れないんですね。ですけれども、ビデオカメラを回していると、それを撮り損なうってことがないんですね。それから経験的にはデジカメは失敗も多い。ガシャッと撮ったけれどもブレていたということがある程度の確率で起きます。ですがビデオカメラで撮れているものはたいてい静止画としてもちゃんととることができるという点で意外と撮り残しが少ない。失敗が少ないんですね。ということでビデオカメラを使って撮るという方法をよくとっています。

L108 発見と感動は大きな力

ポートフォリオというものは結果として作られていくものなんですね。作ることを目的とするというよりも、作るプロセスに一番の面白さがあります。結果的にこうポートフォリオが成長していくんですね。で、自分の知識も成長していくわけです。学習が豊かになっていくわけですね。その証拠としてポートフォリオがある、というような関係かと思っています。

ですから「発見」と「感動」。これがとても大きな力になりますね。それから自分自身にいろいろなものがフィードバックされてくる。返ってくるわけです。この手応え感が非常に面白いってことかな、と思います。それがまた自分の中にある「興味」を引き出すという力になってきたりしますね。

あることについて調べると、今度はまた違う興味が湧いてくる。そこからまた違う発想が、視点が生ま

れてくる。こういうものがどんどんと連鎖していきます。これは際限なく続きますね。ですから、一生、興味を持続させる大きな力になります。そういうふうな興味を引き出す。そして、繰り返し繰り返しやることの面白さを引き出していくということなんですね。これがポートフォリオ学習を生涯学習に活かしていく。生涯学習にポートフォリオ学習を活かしていくことの面白さです。

L109 表現を楽しもう

ポートフォリオは e ポートフォリオという形になると、ホームページという形になってきます。人に見せることができます。人に見せるよりも前に、自分が見るために形になる必要があるんですね。ここも e ポートフォリオのいいところなんですね。人に見せる前に自分が最初の閲覧者になる。見る人になるわけです。そして、まず自分自身に返ってくるわけです。そこでよかったかどうかという手応えがある。自分自身に返ってくるわけですね。そこがとても意味があるところなんですね。そして同時にそれが人にも伝えることができるわけです。

するとどういった可能性が広がってくるかということなんですけれども、そこはまた一つの「表現空間」なんですね。表現する世界なんですね。それがまた面白いという面になります。同じビデオ、あるいはデジタルカメラで撮ってきた素材の組み方で全然違います。それからその見せ方。いろいろあります。それから文章で表現するというのも千差万別。非常に表現の幅があるんですね。

ですから割と決まりきった素材で組み立てるように見えても、それは人によって表現は全然違ってくる世界なんですね。そこに自分の個性が表現される。そして自分の視点というものがそこにしっかりと表現できるわけです。そういう表現の面白さっていうものが生まれてきますね。それを追求する面白さっていうものもポートフォリオ学習の中にはあります。

L110 表現を高め自分を高める

ポートフォリオを形にします。するとホームページ、Web のページになって、誰でも見れるようになります。画像があったり文字があったりします。それを作るだけなら誰でもできるんですが、ここはさらに表現を高めていくというのが、一つまた面白いところなんですね。

文章で言うと推敲と言いますけれども、よりよくしていく。磨きをかけていくということですね。これは自分自身に磨きをかけていくということです。自分自身を高めていくということなんです。どうすればさらに自分が学んだこと、伝えたいこと、体験したことの意味、これを伝えられるだろうかと表現する。これは、とても面白いことなんですね。挑戦意欲の湧く、わくわくするような表現行為です。

ですから、それをどういうふうと考えていけばいいのかということに集中して中身の表現を考えると面白いんじゃないかな？と思いますね。

表現を推敲していく。elaboration, elaborate していくというふうなことなんです。ここにまたポートフォリオの限りのない側面というものがありますね。そして自分の表現の質はいくらでも高めていくことができるんですね。これはもう限りのない挑戦。そして一生かけて自分に磨きをかけていくという学習にもなっていくわけなんです。

=====

私のeポートフォリオ(2) <やまがたネットの皆さん>

=====

E104 @Sheepman

(出演)伊藤政義さん(山形県山形市)

伊藤 私の仕事はですね。自営業なんですけど、比較的家畜を扱ってましてですね。その中で特用家畜という、ちょっと、こう...日本全国でもあまりない羊。シープなんですけども、そちらを飼育してまして、どういうふうに自分で勉強したり、情報を整理していこうかということ、プッシュコーンを使いまして、年間、羊の生理生態を撮ってみたりして、それを自分の情報として整理してわかんないことがあったら、その動画なり、静止画を加工して、わからない人にそれを伝達して、それで答を聞いてみたりと。比較的文章で送るよりは画像で送ったりとか、動画で送った方が、受け取る側はわかりやすかったというケースがありました。

実はもっと遠くの人にこういったものがこういう行動するんだとか、こういったものも食べているんだとか、そういったものを遠方の人に見てもらいたいということがありますね。

E105 山形あ・ら・か・る・と

(出演)高橋敬二さん(山形県山形市)

高橋 4人のメンバーがそれぞれ受け持ちを持って、3つぐらいのサイトを自分が引き受けてやるというふうな形になっているんですけども、なかなか私も途中でつまづいたりしているし、また、勉強会をしましょうということで。わからないということは一つの楽しみと言いますか。わからないことをある程度勉強してそれを成し遂げていくということは、これはうれしいことですからね。そういうことで、まあ、何とかかんとか模索しながらやっているということです。

まあ、私は自分の、旅に、神社仏閣に、それから何でした...。美術か。それ受け持ってやっているわけです。これからそのジャンルの中で、自分も歩いてみて取材して、また立ち上げていきたいと思っているんですが。

E106 山形あ・ら・か・る・と

(出演)相馬克正さん(山形県山形市)

相馬 私たちは、昨年、国文祭というのがありまして、その国文祭の情報レポーターズをやらせていただきました。ボランティアとしてですね。そのときに集まった人たちが、このまま皆ばらばらになるのも寂しいね、ということで集まったのが現在の状態です。そしてホームページでも一つ作ってみようか、ということから始まりました。

そうですね。それこそ、もう私たちの仲間の人たちが、自分たちが好きな写真、そして自分たちのこれ

までの活動なんかを、まあ、それぞれその時々感動みたいなものを自由気ままに、それこそ自分たちの興味本位で撮った写真なんかをそのまま載せるという形でホームページを作っております。「山形あ・ら・か・る・と」というふうにして、一品料理ですが、皆が一品料理、寄せ集めているといった状況です。

=====

< 「e」のアドバンテージ >

=====

L111 生涯かけてフォルダに分類

ここで e ポートフォリオがどういうものかっていうのを図の方でご説明したいと思います。ここに出ているものですね。写真とかビデオとか文章とか、こういうものをどんどん放り込んでいきます。これにタイトルをつけます。名前をつけます。そしてそれをどういう分類でどこに入れればいいのか？というのを考えて分類していきます。

するとフォルダごとにいろんなカード、情報が仕分けられますね。それを整理して束ねていくと、とても大きな入れ物になります。これを束ねた全体がホームページ、ウェブサイトになるわけですね。これが最初は百ページでも、やがては千ページ、1 万ページ、10 万ページととても大きくなっていきます。こういう入れ物、こういう概念なんですね。

一生涯かけて、そして日々更新していくものですから、この更新がとても簡単でないと長続きしませんね。データをいくらでも蓄積できる。こういうふうなものが必要になってきます。それで必要な道具立てがブッシュコーンというものなんですね。

L112 長続きできる道具立て

ホームページを作る道具はいろいろあります。ここで具体的な名前は挙げませんが、そうした多くのソフトは、たいてい一つのページを作るためのソフトになっています。ワープロに割りと似ています。ページを作るソフトです。一つのページは作れるんですけども、それでもちょっと手間もかかる。ポートフォリオは、むしろたくさん束ねたものをいかに全部見れるようにするか。ここがとても大切なわけですね。

すると、何十ページ、何百ページというのを作るのは大変なことですよ。一つ一つページを作る。これでも大変なわけですけども、これにさらにリンクをはる。構造を作る。こういうことをする。とても手間隙かかるわけです。ですから、普通のホームページ作成ソフトでこれができるかというと、できなくはないんですけども、かなり大変ではないかなと思うんですね。ですから小さなものを作るのなら、それで何とかがんばれるにしても、5 年、10 年と続くものにはちょっと耐えられないものになっていくのではないかな、と思います。そういう問題があります。ですから道具立てというものがとても大切になってきます。

L116 情報アーキテクチャの支え

ホームページは比較的簡単に誰でも作れるというわけではないんですけども、それでもソフトの使い方を覚えればできなくはありません。それでも誰でもすぐにぶつかってしまう壁があります。それは何かと言うと、構造を作るってということなんですね。ホームページを作るということは1つのページを作ることではないんです。いろいろな知識の体系、情報の体系があります。そして自分はそれをどういうふうに捉えているのか、分類しているのか。こういう構造を作るものでもあるんですね。そこはなかなか考えるのが難しかったりします。

ですから2ページ、3ページ、4ページ。簡単なホームページは誰でも作れるんですが、これが100ページ、1000ページという規模になった時に誰もがもてあましてしまう。壁にぶつかってしまうんですね。

これをどのように乗り越えるかというのが課題になってくるわけなんです。それで壁ができてしまうと、とてもではないですが、5年、10年...続くものにはなりません。

私たちの考えた方法は、「情報アーキテクチャー」と言います。情報もアーキテクチャーがある。構造があるんですね。構造を作って支えてあげると誰でもホームページが作れて、成長できるホームページが作れるということなんです。

L117 分類の仕方を学ぼう

最初は分類の仕方がわからなくても、だんだん学習していけばわかるようになってきます。それはとても大切な学習の意味のあることなんです。最初はわからなくてもいいんですが、それがたくさん積み重なると、だんだん発見されてくる。そして整理の必要性がわかってくる。そして自分の整理ができるようになってくる。ここまでできれば立派なものですね。

これをどういうふうに整理するか。これをシステムの側で支援してあげるととても楽になるわけなんです。そして本当に自分が考えているように情報が整理できるようになっていくわけですね。ここがとても大きなポイントです。普通はそういう支援体系がないので、どうしても途中で挫折してしまったり、大きく育てることができなくて、途中でやめてしまったりするわけなんです。生涯学習ですから、一生懸命続けるということが目標ですから、これがどのように支援できるのかな、というのが長年の夢だったんですね。

L119 画像の加工は大変

ホームページを作るのは楽しい反面、たいへんな面もあります。特に素材を加工したりするのはたいへんだと思うんですね。画像を変換したりする。そういうのはどうしても避けて通れない。特にこういうでじかめの画像がとっても大きくなります。そのまま載せるととても重たくなります。ホームページにふさわしいサイズに小さくしないとダメですね。すると画像の変換処理をしないとダメなんです。加工しないとダメなんです。小さくしないとダメなんです。逐一とても面倒くさいわけですね。

そして画像もたくさんあると、1枚、2枚、3枚とたくさんとっぱい貼り付けますね。それもなかなかまたたいへんですね。こういうのはとにかく簡単にしないとたくさんある素材が消化できないというこ

とになります。

L120 1日で50枚整理する知恵

(出演)高橋敬二さん(山形県山形市)

(出演)相馬克正さん(山形県山形市)

1日デジカメで撮るとどれくらい撮りますか? たくさん撮りますよね。

高橋 ま、無制限。

無制限?(笑)

相馬 ま、40~50枚。

高橋 そのつもりだったのね。無制限に撮れますもんね。

そうですね。すると4,50枚くらい当たり前ですか。

高橋 まあ、ちょっと旅行に行ったんだっただらばね。100枚とか、当然そうなりますね。

なるほど。そういうふうに1日で50枚、100枚という量を扱うのはとてもたいへんなわけです。

高橋 そうです。

そうするとそれをどういうふうに整理するか。これはとても切実な問題になってくるんですよ。結局は手間がかかるから、それを整理しないでそのまま、ということになると、それは何もしないで埋もれていってしまうわけです。それはとてももったいないですね。

これは自分自身の体験の記録として、意味のあるものとして整理したいと思いますね。それを人に伝えたいと思う。やはりこれをどういうふうに支援できるかってことになってくるのではないかな、と思うんですね。

それで1日50枚撮ったら50枚がちゃんと限られた時間の中で整理できるってことがとても大切になってくるわけですね。

で、ページ作りにあまり手間暇かけすぎると、50枚の画像を整理するために、1日では終わりませんね。2日、3日、...1ヶ月。そうするとそういうものが度重なるともう続きませんね。ですから量の問題はとても大切なんです。ですからできるだけ短い時間で、例えば今日撮ってきたものは今日の夜のうちに全て整理してしまう。そしてできればコメントも付けて、今日の一日の記録っていうふうにまとめたい。これができれば本当に支援できると思うんです。ですから1日。結構手間がかかるんですよ。だからその辺はなるべく手間がかからないようにしたいなあ、と思っています。それでこういう道具が必要になってくるわけなんです。

=====
私の e ポートフォリオ (3) < かすみがうら*ネットの皆さん >
=====

E107 市民活動の記録

(出演) 菊地敏夫さん (茨城県土浦市)

(聞き手) 前川道博

菊地 昔から子どものビデオをずうっと撮ってて、それできっかけは去年の 8 月に、かすみがうら*ネットのオフ会があって、それで、こういうことをやると非常に簡単にホームページが作れるよって教えてもらって始めたのがきっかけ。元々、その、町づくりとか町の歴史に興味があったので、霞ヶ浦のいろいろな人に話を聞いたりするのが好きで、今市民活動を中心に撮ってるんですけど。はい。

前川 ライフワークになっていくようなテーマなんですか。

菊地 そうですね。やっぱりここに住んでる限りはずっと続けていきたいなと思ってますね。はい。

E108 わくわく観察隊

(出演) 高野哲夫さん (茨城県土浦市)

(聞き手) 前川道博

高野 自分の仕事の面で、あの、(宍塚) 大池の観察であるとか、あるいは、えーと、植物の観察であるとか、動物の観察の記録を何らかの形で残していきたいな。残したものをさらに発信できたらな、っていうことは考えていたんですが、『わくわく観察隊』ということで。つまりは文字通りの意味でのポートフォリオだと思うんですけども、それを蓄積していくということで試しにやってみました。

前川 高野先生ご自身の (ポートフォリオ) ?

高野 そうではなくて....。

前川 そうではなくて....。

高野 ...と思ったんですが、実際にはそうになってしまいました。

E109 霞ヶ浦の自然

(出演) 鈴木康夫さん (茨城県石岡市)

鈴木 私は霞ヶ浦がやっぱり大好きで、もう大好きで大好きでしようがなく。私は自分でもって、やっぱり、もう例えば 10 何年か前から霞ヶ浦の写真残そうと思って、結構たくさん撮ってるんです。撮ってもやっぱり、植生なんかが好きなんで、やっぱり植生写真なんかはまだ公開していないのなんかたくさんあるんですけど、そういった写真は持ってても自分でしか見ないってことですよね。だけどこれをネットで公開するっていうことは、皆さんにも見ていただけるっていうか。こういったのは、とても写真やっぱり捨てないで、取っというてよかったなって最近つくづく思ってるんです。

最初は何でも構わないで、ちょっとアップしてみたんですけど、やっぱりこれから改造して、面白いプログラムっていうか、ホームページ作りに専念していきなうって思ってる。やっぱり自然の景色ばかりじゃなく、やっぱりその霞ヶ浦にはいろんな人が昔からもそうですし、今もやっぱり関連してたくさんの方がいろんな活動してたり...いますんで、それらを...。人物なんかをこれからの希望としていっぱい取り入れていきたいと思ってます。

=====

< e ポートフォリオは夢の実現 >

=====

L134 ポートフォリオは大腦の外在化

(出演) 端山貢明さん (東北芸術工科大学名誉教授)

端山先生と私はこの前段のメディアの、人のために役立つメディア、学習のために役立つメディアということと一緒に考えてきました。その結果、この「e ポートフォリオ学習」というところにもつながっているわけです。

端山 そのポートフォリオという名前の着眼ですね。これが非常に重要なヒントになっていますね。ポートフォリオってご存知のようにね、紙状、シート状になったものを集めて入れて持ち運ぶもの。「ポート」「フォリオ」ですね。運ぶものっていう意味で「紙入れ」ってことになっているわけですけども、何でもこういうものができたかっていうことから考えると、これが非常に面白いのですね。これこうやると話が長くなるけど、歴史が長いんだからしょうがないので、ちょっと辿っていくと、一番最初、人間が記号を最初に書いたところはどこかという、土の、砂の上とか、木の切れ端に何かこう傷をつけたとか、一個の時、傷をつけて、二個のとき、もう一個傷をつけてとか、そういうところから始まったわけですね。相手は砂だとか石だとか、でかい、持ち運びも不便な、そういうところから始まったわけです。

それで紙になったときに一番ありがたいことは、勝手に大きさを決めて、自分が使いやすい状態にして、それを集めて積み重ねますと 10 枚や 20 枚軽く積み重ねることができる。その上に乗った情報量は口ゼツタストーンどころじゃないですね。こういう歴史を経てきたときに、ポートフォリオの「フォーリオ」フォーリオというのはシート、もともと葉っぱという意味なんですね。1 枚 1 枚に分かれているものがフォーリオです。これの価値がどれほど大きいかわかるじゃないですか。それが人間の技術が長い間かかって、ようやくここまで来たものなんです。もう一回これを辿って考えてみると、なんで人間の技術がここまで辿ってきたのか。来たがったのかというと、情報の処理をする大腦の構造。大腦の情

報処理の構造がそのようにできているからなのです。

で、今、この「e ポートフォリオ」。これを電子で、コンピュータの上でやりますね。と先からおっしゃっているように重さがない。かさばらない。ですから、このブック型（ノートパソコン）を1枚持っていれば、世界中どこへ行っても何千冊かの本に値する情報が、この中に何千ものポートフォリオがここに入っている。何万も入っているわけですね。そうするとこれは厚い本とか、厚いホントのポートフォリオを持っていなくてもいい状態。ということは、元々の大脳の状態に近くなってきたと言ってよくないでしょうか。

やはり人間のテクノロジーというのは、一番必要なことを一番楽なようにするために、手で持っているのは重くていやなんですよ。ですから頭と同じことを、頭脳と同じことをするものをコンピュータについにやらせることができるようになった、ということが「e ポートフォリオ」だということですね。

L136 人類は自己実現に踏み出す

（出演）端山貢明さん（東北芸術工科大学名誉教授）

メディアと教育、教育支援のメディアという観点からはどのようにお考えになりますか。

端山 そう。それでね、もうこの頃は、私は教育ということを考えていないんです。「学習」なんですよ。自己開発、その前に自己実現。要するに人間が人間として成立していくことを自分で一生懸命やっていく。その時には昔から皆さん、学校でがんがん教え込まれたようなあの教育よりも、自分にとって必要な機能が手元にある。それでコンピュータにここ（手）で触ると、世界中のあらゆる情報を手に取ることができるようになる。そういう機能があるとね、従来のあのタイプの学校というのは、あんまりいらなくなってくる。その助言者、支援してくれる人さえいれば、これは本当の教育者じゃなくても、あることについてよくよく知っている人がいれば、その人に「これはどうなんでしょう？」って言うと、「これは実はこういうことなんですよ」と教えてくれる。別なことは別な人に聞く。これも別な人に聞く。ところがインターネットでコンピュータの上でやると、その別な人、別な人が、たくさんの方がこの中に入っちゃっているわけですね。こんなありがたいことないじゃないですか。そうすると、もうがんがん教え込む教育じゃなくてよい新しい形を考えた方が自己実現...。一人一人違うんですよ。顔が違うように、一人一人の特性が違う。そしたらその特性が一番活きるような形の支援機能が望ましい。これが、確定した現代の方向性です。その意味で言うと、e ポートフォリオが何をしてくれたら一番いいか。もう回答は見えていますね。教え込むのじゃ困るんです。

それで先ほど言われた「教育」という言葉で言うと、education という英語がこれなんですけれども、education というのは実は語源的に言うと教え込むという意味じゃないんですよ。あれは「引き出す」という意味なんです。「eduko（エドゥーコ）=引き出す」をすることが education ですね。これは引き出すということなんです。何を引き出すかという、一人一人が持っている望ましい特質。一番望ましいものをその人から引き出すことが教育だと。これはラテン語ですからローマ字。もう 2000 年も前に彼らはそう考えていたわけですね。ところがいつの間にか、解答があるものの解答を教え込むのが教育になってしまった。このおかげで人は非常に潰されました。主体性が潰されました。その意味で教育を超えた本当の意味での自己学習のためには、誰によっても潰されることのない...。自分がこれは必要だと思ったらこれがある。これがわからなくなった時には、この点については何だろうと考えると、その情報はまた別なフ

オーリオに書いてある。別なポートフォリオを探してくればいい。今は人類の歴史の中で殆ど初めて人々が、一人一人が主体性を持って自己実現をすることが可能な世界の入口に立っている。こういうのを見るとその実感が非常に強いですね。ですから、非常に大事なものを始めてくれたと思います。

L137 自分の可能性を引き出そう！

ポートフォリオ学習についていろいろ考えてきました。そして、皆様のご意見などもご参考にしてみました。ポートフォリオはこれが答えだってものはもちろんありません。自分で考えて、じゃあ、どうしていけばいいんだろう。自分で答えを探していく。そこに一番の面白さがあるんですね。それを常に自分に問いかけていただきたいって思います。

=====

私の e ポートフォリオ (4) < 東根市の皆さん >

=====

E110 そば食べ歩き

(出演) 大江澄子さん (山形県東根市)

大江 プッシュコーンを覚えたいっていうのがありまして、その時にそば食べ歩きをしていましたので、それを記録していくことが覚える一番早い材料っていうか、そういうふうになるんじゃないかと思ったからですね。

そば屋さんからですね、クーポンみたいなのをいただいているんですね。あ、全部のおそば屋さんじゃないんですけども、協力店ということで、一部、そば屋さんのページをプリントしてお持ちいただくと、100 円引きというお店もあります。

さくらんぼの時期なんかには、アクセス件数が一気に増えますね。やはり、いくらかお役に立てているんじゃないかと思います。

E111 ネット de コンサート

(出演) 伊勢博さん (山形県東根市)

伊勢 ポートフォリオと言えるかわかりませんが、私自身音楽活動をしてまして、いろんなコンサートなどもやるわけですけども、そういったコンサートをビデオで撮って、収録して、インターネットで流せば、いろんな方に見ていただけるんじゃないかなと思っているんですね。自分の身の回りにいろんな演奏活動をなさっている方がいるんですが、結構、皆さんね、オリジナルの曲を作っているんですよ。

ネット上で公開できるってことは、そういう自分たちの活動に、また新たな意欲を持たせてくれると....

E112 Web もポートフォリオ

(出演) ジェーン・コンラッドさん (山形県東根市)

(聞き手) 伊勢博さん

伊勢 ホームページもポートフォリオですか？

コンラッド 私の姉はホームページをポートフォリオとして使っており、自分の作品の宣伝にも利用しています。興味を持った人は直接本人に問い合わせもできるし、その縁で仕事につながることもあります。

(パソコンで画面を見ながら) これは私のホームページです。アメリカの友人と情報交換をしています。とても便利です。友人に便りを出す代わりに最近の出来事などをホームページに書き込んでいます。

自分の記録にとってもいいですよ！ 1ヶ月前、1年前の出来事が記録されていて思い出作りに最高です。

【2】eポートフォリオを作ってみよう

=====

< eポートフォリオで生き甲斐づくり >

=====

L122 面白さが増幅する面白さ

(出演) 高橋敬二さん (山形県山形市)

(出演) 相馬克正さん (山形県山形市)

何かとても面白いなあ、ということに一度気づくと、自分の興味というのは、それに向かって働くようになります。すると面白さはさらに増幅されていく。そういうふうな効果を生んでいきます。たぶん皆さんもそういう面白さをお感じになっているのではないかなと思いますけど、いかがですか？

高橋 私も遠いところの、いわゆる、ホームページの友達はあるわけですね。そこにポートフォリオの、ブッシュコーンのあれで送ります。と、「あれ、何だか。見たことない」とか、そういう興味を示してくれますね。そういう質問があります。姫路のご婦人のメール友達がいるんですけども。最近、そういう質問ありますね。だから他の地域にも広がってもらいたいと。こういうふうに思っています。

相馬さんは何かお感じになることはありますか。

相馬 そうですね。ホームページを作るというのは自分で、自分がやってきたものとか、そういうものを表現できる。また自分の感動したものとか、そういうものを表現できる場所。よその人にわずらわされなくて、自分の好きなホームページを作ることができるというのは、やはり一つの楽しみですね。

L125 記録を綴ると「自分史」になる

(出演) 相馬克正さん (山形県山形市)

(出演) 大場史博さん (東北芸術工科大学大学院)

(出演) 高橋敬二さん (山形県山形市)

相馬 60過ぎてって言いますか。ある一定の年齢を過ぎてから、生活して生きてきたことの証みたいなのを、やっぱりある程度の年齢になると、皆が何かそういうことをやってみたくなくなるんじゃないんですかね。

その辺、若い人たちとは違うのかな？ 自分のポートフォリオを作りたいと思ったりしますか。

大場 そうですね。でも長い時間経ったりすると後から忘れてしまったりとか、そういうことがあるんで、今のうちから記録しておくというのは大事かなと思いますね。

若い人たちから見れば、今作っているものが自分の記録、履歴になって、生きたことの足跡になっていく。生きたことの証拠になっていくというふうなことなんですね。「自分史」が。歳とってから書くというのが自分史と錯覚されているんですけども、実はそうではなくて、日々やっていることを記録していくということが10年、20年続いたときに自分史になっていくと…。それはある意味、これまで誰も経験したことがないかもしれないですね。

高橋 そうです。

若い人たちもこういう記録をしていく。自分の興味あることを綴っていくということで、それが未長く残っていくように。そして自分の証になるように。そういうふうに考えてもらうといいかもしれないですね。

それから中高年の方の、生き甲斐創造支援という、とても大切なメッセージをいただいたような気がしますね。

=====

< e ポートフォリオの第一歩 >

(出演) 山田美恵子さん (山形県山形市)

(出演) 前川道博 (東北芸術工科大学専任講師)

=====

Y001 ポートフォリオに名前をつけよう

前川 それではこれから e ポートフォリオ、山田さんのポートフォリオを作ってみようということで進めて生きたいと思います。山田さんにはこれまでに、パソコンに取り込んでおいてもらった画像などをあらかじめ持ってきていただきました。

はい。山田さんはどういったことにご関心がありますか？

山田 いろんなところへ旅行したとか、行事とかそういったものを記録に残しておきたいなと思って、デジカメでいろいろ撮ってあります。

前川 ちょっとどれかいくつか見せていただけますか？

山田 これは2年前に九州に行ったときの写真なんですけれども。

前川 九州に行かれた理由というのはなにかあるんですか？

山田 私は実家が九州なものですから、夏と冬に毎年2回行ってんです。これは九州の実家の近くなんですけども、雉車というのが家の近くのお土産です。焼酎の印としてとっくりみたいなんですけど。

これは九州と本州のつながりで九州の方から取ったものです。

前川 関門海峡ですね。

山田 そして関門大橋です。

前川 ではこういった記録を今度はポートフォリオにしていこうということですね。考え方なんですけども、山田さんのようにいろいろなものが記録されています。そういうものが自分のポートフォリオの全体になってきます。その中に入っていきといいんではないかなと思うわけです。たとえばご趣味のフォークダンス、あるいは毎年行かれていられるご実家のある九州への旅。こういうふうなものが継続性のあるテーマになっていくかもしれないんですけども、ただたぶんそれ以外にも記録されたいものっていうのはあるかと思うんですけど、ですからそういう諸々の記録をすべてここに置いていくという考え方でポートフォリオを作られるといいのではないかと思いますね。それが5年、10年、あるいはもっと続くものになっていくんだろうと思いますね。

ということで、こういうもの全体を入れるポートフォリオをまず作ってみると。そこにまず1ページ、また1ページ入れていくということで進めていければなと思っています。それで全体をまず作ってみましょうか。それで入れ物を作るんですが、私たちのところではPushcornという道具を使ってポートフォリオを作るという形で進めているので、それを今から試してみたいと思います。それで、URLを入れて...

前川 はい、ではこのPushcornというものを使ってポートフォリオを作ります。これはまったくゼロの状態です。ですのでそのポートフォリオの大きい入れ物を作ります。新規サイトの作成ですね。これでポートフォリオになるサイトを作ります。ここに何か名前を入れてもらうといいですね。サイトのここはアルファベットでいれます。いろんな情報が入る自分のこういう入れ物になるわけですけども、それに対してどういう名前をつけますか？

山田 「美恵子の部屋」にしましょうかしら。

前川 はい。ではあとその今度カードを作ったり情報を入れていく時にいろんなフォルダというものができるんですけども、あらかじめ標準的な分類、地域、記録日、登録日というふうに4つセットしてあります。ひとまずこれでいいかもしれませんね。はい、ではこれでOKということにしますか。登録をクリックしてください。

Y002 画像チェック&アップロード

前川 はい、それでこれからポートフォリオになるサイトを作っていくわけですけども、これも手順としてはページを作るための画像とかファイルを送って、それを整理するとということを進めていきましょか。そうすると「アップロード」ですね。これからファイルを送るんですが、アップロード先が選ばれていますけれど、これを「新規」にさせていただいて、では先ほどの九州のをまず入れてみますか。サーバー

のほうに今から画像ファイルを送ります。

これも画像の整理の仕方なんですけど、2002 年なんですね。日付も入れて、この「新しい名前」と書いているところにこの名前を入れる場所の名前をつけてもらおうといいかなと思います。名前はどのようにつけてもいいんですが、わかりやすい忘れない名前がいいと思いますよね。そうするとたとえば 2002 年の 8 月 11 日というふうな名前でもいいかもしれないです。たとえばですけども、2002/0811。

これは場所はみんな同じなんですって。ちょっと違うんですね。それでは場所の名前はあとから入れるということにしましょうか。まずはファイルを選んで送ってみましょう。

先ほどのは、デスクトップのマイピクチャですね。これをダブルクリックします。これで画像を選んでいきます。それから次。どんどん選んでいきましょう。ではこれを全部まとめて送ります。「アップロード」ですね。

終わりましたね。もう少し待っててください。転送が終わって、今画像のサイズなどを変換する処理をやっているところなんですね。はい。これで終わりました。

Y003 クリップファイルで画像を整理

前川 それで次は今送った画像が「クリップファイル」というものに入っているんですよ。これの「クリップファイルの編集」というのを選んで、見てみましょうか。「既存のクリップファイル」というところで、今つけたのは 2002/0811 ですね。はい、そうするとこういうふうに出てきます。

それで、こういったものひとつひとつについてたとえば、そのタイトルをそれぞれつけます。これは画像ファイルには名前をつけていますけれども、内容のわかるタイトルをつけて、整理していくとよいということですね。

それから日付とか場所もものによってたぶん違いますよね。そのへんを少し整理しておくといいと思うんですね。そのためにこのクリップファイルというのを使って整理するようになっています。データの入れ方なんですけど、「全て展開」というのをクリックすると、こういう入力するフィールドが出てきます。ですからここにタイトルとかをつけていけばいいんですね。では他のものもタイトルをつけたり場所を書いたりということをやってみましょう。

それではひとまずこれで先へ進めますか。これをこう書いて保存するときにはこの「登録」。さきほどタイトルをつけたのはファイル名ではなくて、それにつけたタイトルに変わっているわけですね。これで OK です。

Y004 フォルダに仕分ける：テーマで分類

前川 それで、まず最初の 1 ページを作りたいと思います。実はこれは 5 万ページ、10 万ページになるかもしれないんですけども、その最初の 1 ページですね。それをこのページから作る始めるということをやりたいと思います。

その前に順番から言うと、フォルダを先に作るということからはじめましょう。それでこれからいろいろな情報を入れていくカードを作るんですけども、まずそれをどのような分類でいろんなフォルダに仕分けるかというのかなというのをこれから整理をします。それをあらかじめここで作っておきたいと

思います。

まずそのカテゴリというものなんですけども、山田さんの画像とか集めているものとか興味のあるもののグループがいくつかありますよね。ひとつが九州へ行く旅。それからフォークダンス、あとほかにもあるかもしれませんね、その他の場所への旅とか。そういうふうなものがテーマとして考えられますので、それをカテゴリというくりにしておくといいですね。まずこれを新規で「九州への旅」を作ってみましょうか。どういうふうなタイトルとつけるといいですかね。「九州への旅」でいいですか？そうしましょうか。

「略称」というのはタイトルが長いときに短くするんですけど、それほど長くないのでそれと同じでいいと思いますね。コピーしてペーストするといいですね。

次の「フォルダ ID」なんですけど、ここはアルファベットで入力しましょう。これを「kyusyu」と付けましょう。これでいいですね。

これでカテゴリのほうのフォルダを仕分ける先のフォルダをひとつ作りました。せっかくですから場所のほうも作ってみましょうか。「フォルダの種別選択」ですね。地域というのはまだこれからなんですけども、そこを設定してみましょう。これでいいですね。

地域別のフォルダの仕分け先として、「熊本」というふうに書きました。ここへ入れて行きます。ひとまず必要だというものはこれから追加で違う場所や、違うカテゴリを入れたりというときには同じように追加していけばいいですね。

Y005 カードを1枚作る

前川 ではサイト編集に戻って、最初のカードを一枚まず作ってみたいと思います。カードの編集ですね。これから入れるのでもちろん何もありません。新規ですね。それでこれを使ってカードひとつをつくりまします。トピックをひとつ作るというイメージです。

素材をまず使って、ここのページに貼り付けるということで進めていくとページが作りやすいですね。先ほどのこれなんですけども、このときは2年前、九州に行ってきたということなんです。まず画像を貼り付けてみましょうか。この「項目追加」というのから、「画像」というのを選んでいただきましょうか。

ここに画像をはりつけてもらうんですが、「編集」をクリックして、これを貼り付けます。そうするとこの画像がここに貼り付きます。そしてあと何か説明も書けるといいですね。何か一言説明を書きましようか。そうすると「説明」というところで、「説明文テキスト」を選びますか。

例えばこう今いったような話を、ここにこう旅の記憶、思い出として説明がひとつあると、みなさんがわかるようになるわけですね。それをわかりやすく手短かに書いていただけるといいのではないかなと。ここですね。どういうふうに説明されますか？

(説明を書く。)これでよく伝わるようになりますね。ですから画像を一枚貼り付けたら説明もちゃんと書くと、非常に狙いのよくわかる情報になると。自分のなかでもこれがいったいどういう意味のあるものだったかということが整理されるわけですね。

じゃあこれで画像を保存しましょうか。その前にこれをどういうところに仕分けていれるのかということを設定します。フォルダの仕分け先なんです。この「カテゴリ」から先ほど「九州の旅」というのを選んでいただいて「閉じる」といいんです。九州の旅というところに仕分けられたわけです。それでは

こちらと同じように「地域」もですね。熊本ではないですよ。「その他九州」にしますか？ とりあえず熊本とは違うので「どこか」と設定しておきましょうか。そしてそこで「閉じる」で。あとでこの整理の仕方が見えてきたら設定してもらおうといいですね。

はい。では、これでひとつページができました。それではこれを登録します。「新規保存してよろしいですか？」はい、OK ですね。これでひとつカードを作りました。

Y006 サイト生成、小さくても大きな一歩

前川 今度はこれを見ることができるようになります。この「サイト編集」というのを選んでいただいて、この「ポップコーン」というのを選びましょう。

これは何かというと、今データを入れました。ただそれはどこでも見れる状態にはなってないわけですね。今度このポップコーンというので、サイトの自動生成というのをやります。そうすると今度は誰もが見てもらえるような形のあるホームページができるわけですね。そういうわけで、この再生成というのをやってみましょうか。

はい、これでいろいろ出てきてますが、この今の一瞬の間にホームページを作ったわけなんですね。とりあえず、この生成されたページはこちらというところからとりあえず見れるようになっています。

これが今できたページなんですね。いろいろなフォルダに仕分けられていますが、まずカテゴリから見いきましょうか。それで「九州の旅」。今は1件しかありませんけども一つ入れたわけですね。

この関門大橋から見ると。というふうなページができたわけですね。簡単なページですけど、画像一枚を説明している。ただ説明もちゃんとわかるように書いてありますし、画像一枚をみせられても単なる画像ではなくて、意味のある情報として伝わっているわけですね。

そしてまずはOK ですね。

そしてこの画像はこの大きさで出していますが、L サイズというのをクリックするともっと大きく出ます。こういう大きさですね。

とりあえずこういうふうに入れるということがとても意味のあることになります。こういうふうにして、ひとつページを作りました。

ポータルサイトというのはこのようにしてまずひとつのページを作る。ということがとても大事です。これが5年10年と続く、小さくても第一歩なんですね。小さくても大きい第一歩なんです。これがひとつできたということは、2ページ目も3ページ目もあるいは100ページでも1000ページでもできるという可能性が開かれたということなんですね。

これはとても小さくても大きな第一歩なんですね。

Y008 インターネットに公開しよう

前川 こういうふうですね Pushcorn を使って web サイトを作ることができます。ポータルサイトを作ることができます。そして、これでまずいいということになったら、今度はこれをインターネットに公開します。それを次にやってみましょうか。

その手順なんですが、「基本設定」ですね。そして「サイト基本項目」というのがあります。これを「公

開」にするといいわけですね。そして「登録」。で、OK です。そしてもう一回「サイト基本項目」に行っていて、これをクリックしてみてください。上の URL を。これで出てきました。これが公開されたホームページなんですね。

先ほどのサイトは、まだ公開する前の段階なので、他の方はパスワードがないと見れないようになっています。これはパスワードなしでも公開される、別な形でインターネットに公開されているんですね。今度はこの URL、ホームページのアドレスをみなさんにお知らせいただくと、私のこれを見てくださいというふうにお知らせすれば、これをみなさんに見てもらえるわけですね。

=====

<e ポートフォリオのアドバイス>

(出演) 山田美恵子さん (山形県山形市)

(出演) 前川道博 (東北芸術工科大学専任講師)

=====

Y011 事例『マッピング霞ヶ浦*』

前川 私の作っているサイト、「マッピング霞ヶ浦*」というサイトなんですけども、これは 97 年から作り始めてもう 7 年になります。

Popcorn、pushcorn というのも実はこのサイトを作りながら、どういうふうなものにすると皆さんに役に立つツールになるかということをおぼろげに自分のケースで検証したんですね。それがこんなふうにならぬに更新できるサイトになっているんですね。

それからこれは土浦というところで水戸街道のその昔の面影が少し残っている坂道なんですけども、赤信号の時にデジカメを取ってバンバンと撮ったものなんですね。

これは霞ヶ浦を歩いていたら、車で回っていたら歴史的なこのコンクリート造りの面影ある古いものなんですけど、それが取り壊されていったりして思わず記録をとったものなんです。

それで全体はどういうふうにくくっているかということ、このようになかなかさん括り方がありません。全てあわせるとトピックの数が 4000 くらいありますか。4300。クリップを入れると 6 万。それぐらいの大きさにもなるということなんですよね。

これぐらいすぐたくさんありますが、それでもちゃんと収まっているわけです。ですから山田さんのサイトもこれぐらいまで育っていくという第 1 歩を踏み出されたわけです。

Y012 体験を綴ってみよう

前川 たとえばこれをどういうふう括っているか例をいくつかお見せしたいと思いますけれども、霞ヶ浦に行ったときに船に乗せていただいて、そのときにずっと回ってきました。そのときの様子をたくさん撮ってるわけなんですけれども、これはビデオで撮ったので静止画がたくさんできてはいるんですが、早朝に土浦の港を船で発つてですね、出かけていくと。画像がたくさんあるので、これを全部クリップにして載せているわけです。

そして次にマリナーに集合して、これをまたクリップたくさん載せてあります。予定の人が集まってくるというようなストーリーになっていますね。これが乗せていただいた調査船なんですけども、これからこれに乗せていただく。ということなんですね。とても新しい船で、もの珍しいのでいろいろ撮っているわけです。

いよいよ出発。ということでこれは船長さんなんですね。土浦港がだんだん遠ざかっていくという風景になっていますね。朝っぱらなので、そして冬ですので外がなかなかこうよく見えませんね。そうするとこうして霞ヶ浦の風景が見えているわけなんですけども、どんどん沖合いに向かって進んでいるということなんです。土浦の町がだんだん遠ざかっている。カモメやカモも飛んでいる、筑波山もよく見えています。こんなふうにしてずっと撮っていききました。

これは一日の体験なんですけども、たくさんになりますよね。物語ができちゃうわけです。それひとつひとつがトピックで 10、20 という、あるいはもっとたくさんのトピックにして束ねると一日のできごとが綴れると。これ全体がひとつのカテゴリにすればいいわけです。というふうな整理の仕方、いつも整理をしています。

これが私の霞ヶ浦のサイトですね。

Y009b 画像を入れてから整理しよう

前川 最初から種類というのはわかりません。初めてのものは全く確証もないし、特徴もわかりません。ですからこういうものでまずこう表示、画像に撮ってみてですね、その特徴を確認するということですね。たとえばこういうふうに急に飛び立った様子。これも白い斑の模様がここにあるんですよ。そうするとこれは白い斑のある特徴はオカヨシガモだというのがわかるわけなんですけど、こういう特徴を捉えておくことがとても大事。こういうものはこの瞬間はわかりませんが、あとからこういう画像を見て確認するわけです。調べる前にまず入れちゃうんです。そのほうが確認しやすいからなんですよ。

山田 逆なんですね。調べてから入れるというふうな。

前川 そうです。違うんです。ですから、作るプロセスが調べるプロセスなんですね。これもちょっと整理してから入れるもんだというふうに思い込まれる方が多いんですが、そうすると時間がかかりますよね。だからまず入れちゃおう。そしてあとから整理しようと考え方もいいわけなんですね。これもデータを入れるのが簡単、更新するのが簡単だからできることでもあるんですね。

そうすると気楽にできますよね。タイトルをつける。そしてどっかのフォルダに仕分けるということをやっていけばいいわけです。

山田 逆に考えてましたね。こう整理してからでないと入れられないと思っていたから、なかなか手をつけられなかった。

前川 そうするとどうしてもこう構えてしまいます。そしてついつい入れるのが億劫になりますよね。そしてやらなくなっちゃうんです。ですからもっと最初に気楽に画像を撮ったら送らしましょう。入れましょう。作りましょう。というのが最初にあっていいと思うんです。

山田 そうすると億劫にならずに作ることができるんですね。

Y010 大風呂敷にして全てを包もう

前川 テーマがこう目の前にあるとそれが作りたくなる。そうするとテーマっていうのは 5 年、10 年経った時に自分の興味も変わってくる。そうすると変わったときにまた新しいものを作るといくつもこういうんなものを作ってしまうことになるわけですよ。そうするとやがては 5 個 10 個とたくさん増えていってしまいます。そうなる管理できなくなりますよね。自分でどんなサイトを作ったかわからなくなりますよね。

なるべくこう大きく、大風呂敷にしてすべてを包んであげる。こういう考え方がポートフォリオなんですね。あんまりテーマで細分化しないほうがいいですね。

むしろテーマで細分化するときにはカテゴリで分ける。カテゴリフォルダを、仕分け先を分けてあげるという考え方ですね。そのほうがいいです。

Y009 1 ページ、1 ページと作ろう

前川 ポートフォリオということでみなさん構えてしまう傾向がどちらかというところあります。ですけれども、大切なことはまずひとつ作ってみることなんですね。これを何よりもお勧めします。1 つできれば 2 つできるんです。2 つできれば 3 つできるんです。1 つも作らないといつまでもできないですね。

これでズルズルと 1 年でも 2 年でも続いてしまうと、できるものができなくなったまま 1 年、2 年とあつという間に過ぎていきます。とてももったいないですね。

ですからまずひとつページを作ってみる。そしてやり方も全てわかる。そうすると次もできる。ということになってこれを続けていけばいいんですね。これを一生涯続けていただくと、知らず知らず、千ページ、1 万ページになっている。ということなわけなんですね。

ですからとても簡単な第 1 歩なんですけども、とても大きな歴史のある取り組みの一步の踏み出しなんですよ。

というわけでこれからもがんばってください。

=====

<私の e ポートフォリオ 5 >

=====

E113 初めての海外

(出演) 松本章吾さん(神奈川県小田原市)

(出演) 前川道博(東北芸術工科大学専任講師)

(ネット会議でインタビューを始める)

松本 あ、見えました。

前川 じゃ、始めましょうか。

松本 (最初の動機) 海外旅行でたくさん写真を撮りましたので、その整理のために、プッシュコーンの前の、ポップコーンの段階ですね。それを利用して、簡単にサイトが作れると。うれしくなりましてですね。そこからお付き合いが始まった次第です。

(始めたのは) 約 3 年前です。

前川 何か懐かしいですね。

松本 そうですね。一番まともなサイトとして今も残っているんで、今考えて見ると e ポートフォリオかな、と。そういった括りができるんじゃないかと思っています。

最初はそういった目的でしかなかったんですけども、いろんなサイト追加していくうちにだんだん楽しくなってきました、自分の活動ですね。そういったものをそこに追加していったと。そういった感じです。

E114 新庄祭り山車制作記録

(出演) 田中玲さん (山形県新庄市)

田中 新庄祭りっていう、200 年以上続いている祭りがあって、それって毎年毎年、山車を制作するんですよ。でもなかなかやっぱり、あの、担い手不足でですね。なかなか作り方とか、技術が伝承されにくくなってきてしまっているんですね。あの時、確か何年か前同じもの作ったはずだなあ、なんて、人間の記憶なんかあやしいですから、そのとき振り返って「ああ、そう。これ、この色使うんだ」とか。それ、サイトにあるんで、僕の町内だけじゃない。他の担い手の町内の方も、同じ問題にいつか直面するでしょうから、そのときに、あそこのサイト見ると、作り方だいたいわかるよとかって言ってもらうと、そういうの、技術の継承になるんじゃないかと思って、あれはやっている。まあ、人のためにじゃないですね、あれは。自分は教えてもらえないんで、じゃあ、自分で盗んでやろう。じゃあ、記録してやろうっていう。そういう記録帳の代わりにサイトを使ってるっていう...。

前川 自分が記録して伝えようと。

まあ、それが、もしかしたら人のためになるかもしれないっていう感じで。

前川 田中さんが記録したいものが記録されている。

田中 そうです！ 僕が興味ある部分なんで、山のどの、という大きなものってあまり興味ないんですよ。小物作るっていう方が僕は好きで、そっちずっとやってきたんで、重点はそっちにいっちゃってますけども。色の塗り方とか、加工の仕方とか細い（こまい）方ですね。骨組みがどのとかいうのは大工さんに頼めばいいことなんで（笑）。あまりその、別に僕らが覚える必要ないんじゃないかなっていう…。

前川 携帯（電話）のデジカメを使ったんですか。

田中 そうです。携帯のカメラで全部写真を撮って。

前川 それは何か、どういう狙いがあったんですか。

田中 カメラをいちいち持って行きたくなかったんで（笑）。携帯ならいつも持っているんで、（手真似で）こっ撮って、家に帰ってきて、コンピュータに取り込んで、そのまま落とす。で、アップするっていうのを寝る前にしとくって感じでやってたんで。

まあ、ペンキとかいろいろと汚れるものですから、その辺に転がしておく、ドボツとかがってペンキに落ちるんで（笑）。大事なデジカメがばあになっちゃうんで。気軽に行って気軽に撮れて気軽に保存できるってことで携帯。まあ、レンズちっちゃいですけど、結構使えると思います。携帯のカメラっていうのは。

=====
<面白さを無限大に>
=====

L127 教えることは 10 倍面白い

ポートフォリオを作り始めるとだんだん面白さにはまっていく人がいます。もうそうなれば言うことありません。そこから今度はもっと楽しさを他の人たちに伝えていってあげたり、自分でもっとそれ以上の面白さを創造していく。そういうことを考えていただくと、さらに楽しくなっていくと思うんですね。

そこで是非お考えいただくといいかなってことは、自分が得たもの、それを他の人に伝える。教えるっていうのは…。人から教えてもらう。その一つのお返しでもありますが、人に教えるっていうのが一番自分にとってプラスになる学び方なんです。これはとても大切なポイントなので、皆さんにもおすすめしたいと思っています。教えることは学ぶことよりも 10 倍面白いんですね。

これまで学校というのは先生がいて、教わる人たちがいて、その関係で成り立ってきました。ですけれども、これからは皆でお互いに教えあう、学びあう。こういう学びあいができるといいと思うんですね。そのためにも自分が興味あるものを持っていて、人に楽しさを伝えられる。そして、人からも刺激を受けてそれが自分の力になる。そういう力を持っていくということが求められていくことなんだと思うんですね。

昔、例えば寺子屋というものは、その時々で先生が替わる。で、あることを学んだら、今度はその人が先生になって皆に教える。それを役割を替えて皆で回していく。非常に全人格的な教育が行われたと言わ

れています。

まさに今の、こういう道具を使ったポートフォリオを使った学習というのは、それを再び実践できる一つのケースになるんだと思うんですね。

人に教える。そしてさらにそれが自分の力になっていく。そして人にも学ぶ面白さを伝えるっていう役割を果たして楽しさの輪を広げていくと。そういう展開をお考えいただけるようになるといいんじゃないかなっていうふうに願っています。

L129 人もいろいろ、分かち合い

世の中にたくさんいろんな人たちがいます。いろんな世界観があります。そして考えがあります。そしていろいろな専門分野、バックグラウンドがあります。場所が違うとその状況も全然違います。そういう多様な世界がこの世の中なんですけれども、そういういろんな人たちが情報発信できるようになると、それがまた豊かな社会を作り上げていくわけなんですね。

今、ブッシュコーンという道具を使って、全国のいろんな人たちが、それでいろんなサイト、ポートフォリオ作りを始めるというところに来ています。そうすると実はいろんなものがあって、とても楽しい世界なんですね。こういういろいろやっている人たちが他にいと、いろんな刺激を受けるわけなんですね。これまでにこのブッシュコーンの、ユーザサイトがたいへん多くなってきました。かれこれ 100 を超える数のサイトができてきています。どんどんできてきています。で、この内容を見ると、学校とか地域コミュニティの中で、一つの役割を持って地域情報を出していくというふうなものもあります。それから学校の中で、総合学習の中にポートフォリオ学習を活かしていくというふうな取り組みも出てきています。それから地域の活動をレポートするという形で地域情報を発信していくという取り組みも始まったりしています。それから自分たちのクラブ活動を紹介したりとかですね、今、自分が一番興味のあることを伝える。そういうふうな趣味的なものから、非常に幅広いんですね。食文化、温泉とかお祭り、それからですね...、その他いろいろありますね。こういうのは挙げると切がないという感じですね。

それで全く興味も違えば、会ったこともないような人たちが、いろんな情報を出しているんですね。それがまた足したようで、上手い、下手ということを超えた一つの魅力として感じられる。それもホントに刺激を受けるんですね。ですから、それもこういうものの面白さなんだろうと思うんですね。ですから自分が中心でいつも、他の人たちも全く違う形で魅力あるものを作り出している。それが実は全く同じ道具でやっているわけなんですけれども、中身が全然違うわけですね。これがポートフォリオというものが横につながった時の面白さではないかと思うんですね。

そういう点では皆さんも何かお感じになるところがありますか。

L130 仲間どうして学びあえる面白さ
(出演) 高橋敬二さん(山形県山形市)

高橋 まず第一にその技術的なことね。それは年中、何て言いますか、講習会とか何とかっていうことが常に開いているっていうことは無理なことですので、お仲間を増やす。ポートフォリオと一緒にやっているお仲間、友達。それがお互いに牽引しあって教えあって、私は年寄りだからなかなか覚えが悪いわけで

すけれども、この相馬さんというのは、すぐ教を請うわけですね。そういうお仲間が、お友達というか、お仲間がどうして教えあうと、その技術的なわからないことはね。これはホントに有意義なことだと思いますよ。何て言いますかね。遠慮なく聞けますでしょう？ お友達は、でない、ちゃんとした講習会に行つて成るってことでなくて、そのお友達、お仲間どうして教えあう。これが一番の勉強になると思います。実際、私そうしている。皆から聞いてやっています。

ありがとうございました。

L138 80倍と言わず、100倍、200倍

(出演) 相馬克正さん(山形県山形市)

(出演) 端山貢明さん(東北芸術工科大学名誉教授)

ポートフォリオ学習の最後なんですけれども、あまり自分から、「これはつまらないんじゃないだろうか」とか決め付ける必要もありません。自分の可能性がどのように開かれていくんだろうかということもやってみないとわかりません。やってみることにとても大切な意味があります。その中でたぶん何かを発見していくんですね。それを是非大切にしていきたいって思っています。それがやがては5年続き、10年続き、あるいはもっと続くと、自分のかけがえのない生き甲斐創造になっていくかもしれないんですね。それも大切な学習の機会ではないかな、と考えています。

是非、無理することなく、「80倍楽しもう」といいましたけれども、80倍と言わず、100倍でも200倍でも楽しんでいただきたいと思います。

テロップ(ちょっとオフレコ)

相馬 なんで80倍なんですか？

何を、どういうふうに数字を当てはめようかなという公式を作ろうかなって思ったんですよ。それで80倍と仮に定義してみたんですけど、「増幅していく」ので80倍という数にもなっていく。

相馬 8だから末広がりの。

そういうふうにご提案いただいて意味づけられていくんだと思います。

端山 80をね、縦にするんだ。

それはなかなかいい発想ですね。

相馬 ゼロと無限大で。哲学の世界だ。

無限大ですね。そうなんですよ。

実はこのポートフォリオってというのは、いろんな課題を含んだ学習の提案にもなっています。それは問題は自分の中に作られるということなんですよね。自分だけが持っているというものなんです。(問題を)与えられて解き方を解くために、学ぶために学ぶのではないわけなんです。それは自分の中にある「興味」、そこの接点で見出されるもので、多種多様なものである。これを拘束するものではないということなんです。実はその縛りがとてもきつかったということで、私たちはいろいろな制約を受けてきたわけです。ある意味損をしてきたわけです。その損とはどういうことかということ、自分の中に、本当に興味のあること、やりたいこと。生き甲斐と言ってもいいかもしれません。そういうことを見出し損なってきた人も多いのではないかと思います。是非それに気づいて欲しいというのが、この問いかけなんです。

L141 誰もがつかめる「面白さ」

で、この世の中つまらないって言っている人もいますけれども、そんなことでは決してなくて、どこに行っても面白いものはあるんです。ただそれを面白い、興味のある対象としてみているだけなんです。だからこういう道具で、デジカメで、ビデオで捉える。発見する。こういうのも一つの表現行為。発見の行為なんです。これも何気ないことですが、やってみるかみないかでだいぶ差がついてくる。そこに何かが見えてくる。それは自分が世の中を見る視点を作ることなんです。これもポートフォリオというものがあると、一つのきっかけになるということですね。これもまた世界を見る一つのきっかけ作りとしてとても意味のあることなんではないかなと思うんです。そして人に伝える。人に教える。この面白さですね。これで何倍も(面白さが)増幅します。これは掛け合わせで増幅します。そういう面白さがあります。そして皆と一緒に楽しくやりましょうというコラボレーション。こういう際限のない楽しみ方がその先にある、ということなんです。一人でやっていたら孤独でしかないんですけども、仲間がいるととても楽しくなる。支えあいになる。そして自分が途中でやめちゃうと思ったところも、人に励まされる。人に刺激をされあう。こういうふうな関係性で思いもしなかったような方向に展開していくことがあると思います。というふうないろいろなことがあって…。人は意外に常識にとらわれているって面が非常に多いんです。「こういうことやると恥ずかしい」と人は思うんじゃないかと思ったりするとできることができなくなります。結構皆さん、自信がなかったりして、ちょっとためらったりする方も多いというのを見受けます。それはやはり自分でやる面白さの経験がまだないからかもしれないですね。本当に楽しめる可能性というのは、誰にでもあるわけなので、そこを早く気づいて皆さんがもっと自分で楽しんでいけるような文化創造、学習の創造というものができるように支援して04/9/11いきたいなあと思っているんです。そんないろいろなことを考えると、生涯学習の面白さというところは掛け合わせになってくる分がある。そうすると総じて80倍ということになっていくわけです。80倍のどれがどの数字というのはちょっと秘密にしておきたいと思います。これ、どこかで種明かししたいと思っています。

(第1回おわり)